



筑波山地域Cトレッキング 第1ステージ

観察資料

<資料> 酒蔵案内・稲田石

本コース周辺の酒蔵分布



■ 磯蔵酒造

緑あふれる山々に囲まれた「笠間市」は古くから稲作が盛んでした。

なかでもスサノオミコトの奥さん「稲田姫」に縁ある「好井」と「御神田」を有する「稲田神社」から名付けられた稲田地区は古くから「稲の郷（里）」と呼ばれ、日本最大の御影石の大地から湧き出る良質の地下水（磯蔵ではこの水を「石透水・せきとうすい」と命名）とともに、酒造りには絶好の地域でした。

その稲田にある当蔵は、石が幾らでもある場所だから磯と名乗り、古くから米作りをしていましたが、その良質の水と米に着目した酒蔵初代「磯 良右衛門」が江戸末期より酒造りを開始、やがて明治時代には「稲の里」から「稲里」を酒名に「磯酒造店」を開業、敷地内、数々の酒蔵、米蔵に因んで屋号「磯蔵」と呼ばれるようになりました。

「稲里」は地元笠間をはじめ茨城県内に“定番の地酒”として広く親しんでいただいております。

（磯蔵酒造ホームページより）

■ 石の百年館

「石の百年館」という名称には、先人たちが100年以上にわたって築き上げた稲田地区の採石の歴史を広く後世に伝え、未来に向けて100年先の発展につなげたいという願いがこめられています。

貴重な鉱物標本をダイナミックに展示し、稲田石の特徴や生成される過程を分かりやすく解説しています。さらに、JR稲田駅隣接という立地を活かし、観光交流センターとしての機能も備えます。

（石の百年間（笠間市商工課）ホームページより）